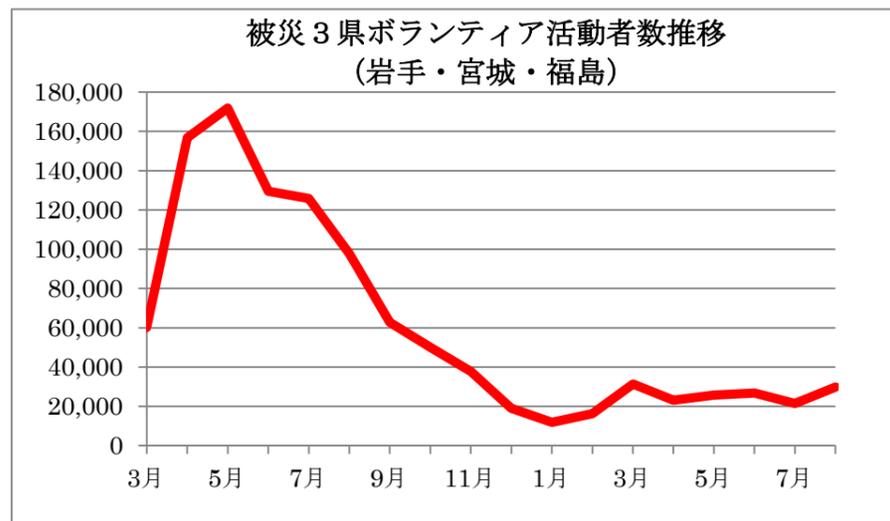


# 震災ボランティアからの考察 ～取り組むべき課題と今後の活動計画～

## ○島根県への提言

### 1. 継続的な被災地へのボランティア派遣

- 被災地の現状
  - ボランティア活動者数が減少傾向にある一方、まだまだボランティアが必要
  - 本学では、平成24年9月30日現在、201名の学生職員が被災地で活動
- 島根県全体での被災地支援
  - 現地での活動には、各団体との連携が必要不可欠 ⇒ バックアップ体制の構築
  - 「思い」を「形」として変換する



参照：全社協 被災地支援・災害ボランティア情報

### 2. 防災への取り組み

- 県民の防災意識向上
  - 島根県でも、防災計画を策定 ⇒ 普段からの意識、地域コミュニティの重要性
  - 住民相互のつながりこそ「減災」への道のり
  - 防災先進自治体の例を参考にし、県民が実施しやすいシステム改善を目指してほしい (例) 神戸市地域防災計画
- ゴミ袋にハザードマップ掲載の提案
  - 誰もが手にして毎日使うゴミ袋にハザードマップを掲載
  - 市民の避難経路などの意識付けをし、減災につなげる

## ○活動計画

### 1. 平成24年度 総合防災訓練への参加 (11/4 浜田市三隅町)

- 地域への情報発信
  - 被災地でのボランティア活動から感じたこと ⇒ 「思い」を地域へ還元する
  - 少しでも、防災に対する意識を高めてもらう

### 2. 県立大学3キャンパス合同での取り組み(案)

- 地域住民との交流
  - 岩手県立大学では、震災以前から住民同士のコミュニティ構築に当たっていた
  - 土鍋をツールとし、地域の方と学生が交流の場を持ち、様々なネットワークを広げるねらい
  - また、これは災害時の炊き出しも想定しており、日頃からそのノウハウを培っていた



- 県立大学でも、これをモデルに地域交流を図りたい
- 浜田、出雲、松江3キャンパスで合同に活動し、地理的に不利な島根県において、広域的なネットワークの構築を目指す

